

JAAF

財団法人日本陸上競技連盟

ISSN1349-7596

陸上競技研究紀要



**Bulletin of Studies
in Athletics of JAAF
Vol.3, 2007**

「陸上競技研究紀要」

(Bulletin of Studies in Athletics of JAAF)

投稿規定

陸上競技研究紀要編集委員会

1. 投稿資格について

本紀要に投稿できるのは、原則として(財)日本陸上競技連盟登記登録者(例:公認コーチなど)とするが、それ以外でも編集委員会が認めた場合には投稿することができる。

2. 投稿内容および種類について

投稿内容は陸上競技についての理論と実践に関するもので、内容に応じて、総説、原著、購読紹介(外国文献の紹介など)、資料、指導法および指導記録の紹介などに分類される。スタイルは和文、英文のどちらでもよい。

総説および原著には英文のタイトル、著者、所属、要約(150語以内)をつける。

(注:何らかの理由で英文要約等の作成が困難な場合は、編集委員会にその旨をご相談ください。)

3. 採否等について

原稿は査読を行い、査読結果をもとに採否および掲載順序の決定、校正などは編集委員会が行う。

4. 原稿の書き方について

原稿は原則として、ワードプロセッサで作成する。本文は、横42文字×縦38字で1頁とする。(1頁は約1600字、刷り上がり10頁以内、図表もその頁数に含む、すべて白黒にて作成)

英文は、A4サイズタイプ用紙を使用し、15枚以内を原則とする。

計量単位は、原則として国際単位系(m, kg, secなど)とする。

5. 文献の書き方について

本文中の文献は、著者(発行年)という形式で表記する。

例) 田中(1996)は _____

文献は、原則として、本文最後に著者名のABC順で記載する。書誌データの記載方法は、

著者名(発行年) 論文名, 誌名, 巻(号), ページの順とする。

例) 吉原 礼, 武田 理, 小山宏之, 阿江通良(2006) 女子棒高跳選手の跳躍動作のバイオメカニクス的分析. 陸上競技研究紀要, 2: 58-64.

伊藤 宏(1992) 陸上競技の発育・発達. 陸上競技指導教本—基礎理論編—. 日本陸上競技連盟編, 大修館書店, 55-72.

同一著者, 同発行年の文献を複数引用した場合は発行年の後にa, b, cをつける。

例) 田中ら(1996 b)は, _____

6. 原稿の提出先

投稿原稿(本文, 図表など)は、下記へE-mailの添付資料として送付するとともに、プリントしたもの1部を郵送する。

〒150-8050

東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

日本陸上競技連盟

「陸上競技研究紀要」編集委員会宛

(Tel 03-3481-2300 Fax 03-3481-2449)

E-mail: kiyou@rikuren.or.jp

7. 原稿の締め切り

原稿の締め切りは、1月15日とし、発刊はその年度の3月末日とする。

8. その他

掲載者には、「陸上競技研究紀要」10部を寄贈する。

問い合わせ先:

〒244-8529 静岡市大谷836

静岡大学教育学部 保健体育講座

伊藤 宏(普及委員会調査研究担当)

Tel 及び Fax 054-238-4668

E-mail: ehhitou@ipc.shizuoka.ac.jp

あ い さ つ

(財) 日本陸上競技連盟
専務理事 澤木 啓祐

普及委員会が主体となって発行していた「陸上競技紀要」と科学委員会が発行していた「陸上競技の医科学サポート研究」の報告書が一つになって再出発をしたこの「陸上競技研究紀要」も第3巻を発行することになった。

近年では、スポーツの競技力発展のためには医科学的な研究に基づくデータを蓄積し、分析・応用していくことが必要であることは至極当然のこととなってきた。

本連盟では、1991年に東京で開催した第3回世界陸上競技選手権大会において多くのデータの収集をおこない、その後「世界一流競技者の技術」という冊子としてその研究成果を発表した。日本の競技力向上に、その成果が十分に生かされたことは周知の事実である。

現在本連盟では、16年ぶりに日本、大阪にて開催することになっている世界陸上競技選手権大会を前に準備に余念がない。トレーニングは「科学性」、「合理性」を持ち、それを発展させた「独創性」によって世界での競争に耐えうる競技力の向上がなされるものである。本年は、この日本において開催される世界選手権においても、世界一流の競技者がその技術を発揮しあうその場でデータを収集し、分析を行うことで、その研究成果が再びわが国の競技力向上に寄与することを願ってやまない。

第3巻となるこの「陸上競技研究紀要」では、投稿論文8編（原著論文：5編、資料報告：3編）、医科学サポート研究報告10編が掲載されている。ここに掲載されている研究報告が、それをご覧になった全国の指導者の日ごろの指導の一助となり、日本陸上界がさらなる発展をすることを期待する。

陸上競技研究紀要

Bulletin of Studies in Athletics of JAAF

Vol.3 2007

目 次

【原著論文】

中高年齢者の 100m 走中間疾走局面における最高速度、歩数頻度および歩幅の加齢にともなう低下の性差
・・・・・・・・奥村浩司ほか・・・ 1

Overlay 表示技術を用いた陸上競技 400m 走レースの時間分析
・・・・・・・・持田 尚ほか・・・ 9

エネルギー変換率からみた男子棒高跳選手の跳躍技術に関するバイオメカニクスの分析
・・・・・・・・武田 理ほか・・・ 16

円盤投げの動作時間と投てき記録との関係
・・・・・・・・田内健二ほか・・・ 25

全国小学生陸上競技交流大会の競技運営に関する満足度・改善度について
・・・・・・・・阿保雅行ほか・・・ 32

【資料報告】

男子 100m 走における、国内 GP にて収集した外国人選手と末續慎吾選手の疾走速度分析
・・・・・・・・広川龍太郎ほか・・・ 39

小学生のボール投げに関する実態について—平成 17・18 年度全国小学生陸上競技交流大会ソフトボールアンケートより—
・・・・・・・・宮崎明世ほか・・・ 42

第 22 回全国小学生陸上競技交流大会に出場した優秀選手の体力、心理的側面と疾走能力について
・・・・・・・・伊藤 宏ほか・・・ 47

【科学委員会研究報告 陸上競技の医科学サポート研究】
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55